



HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	国民社会の研究 第13巻
Author(s)	鈴木, 栄太郎
Description	『鈴木栄太郎著作集 7（国民社会学原理ノート）』を出版した際のソースとなった原稿である（同書内での言及による）。
Issue Date	1961-11-02
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/77618
Type	manuscript
File Information	I016_0113.pdf



13

本巻中録あり
各論のノートの別コ入
現はる本巻は本海コ入として第十四巻に續く

NOTE BOOK

Made of paper

Specially prepared in Japan

國民社会の研究
第十三卷

昭和二十七年二月六日



久美堂特製
¥20

A-NO.3

MUSASHI

13

滑結を家連合の魂

村落の社会関係を模った家連
合と歸する時

(1) 親族
同族

(2) 村組
近隣組
トナリ組

(3) 姓と年齢による集團

(3) の関係は他人と他人の関係。

そこに家の位置や力な働くことは思

ひよといふ働かない場合もある。それを

家連合論で何と説くか 村落下は

家を累位として社会同位があらはれ
すか多うとは云へしか、ゆゑその能な
に、~~い~~た可なりとの持た結構成が
家を累位とするなと云ふ事な

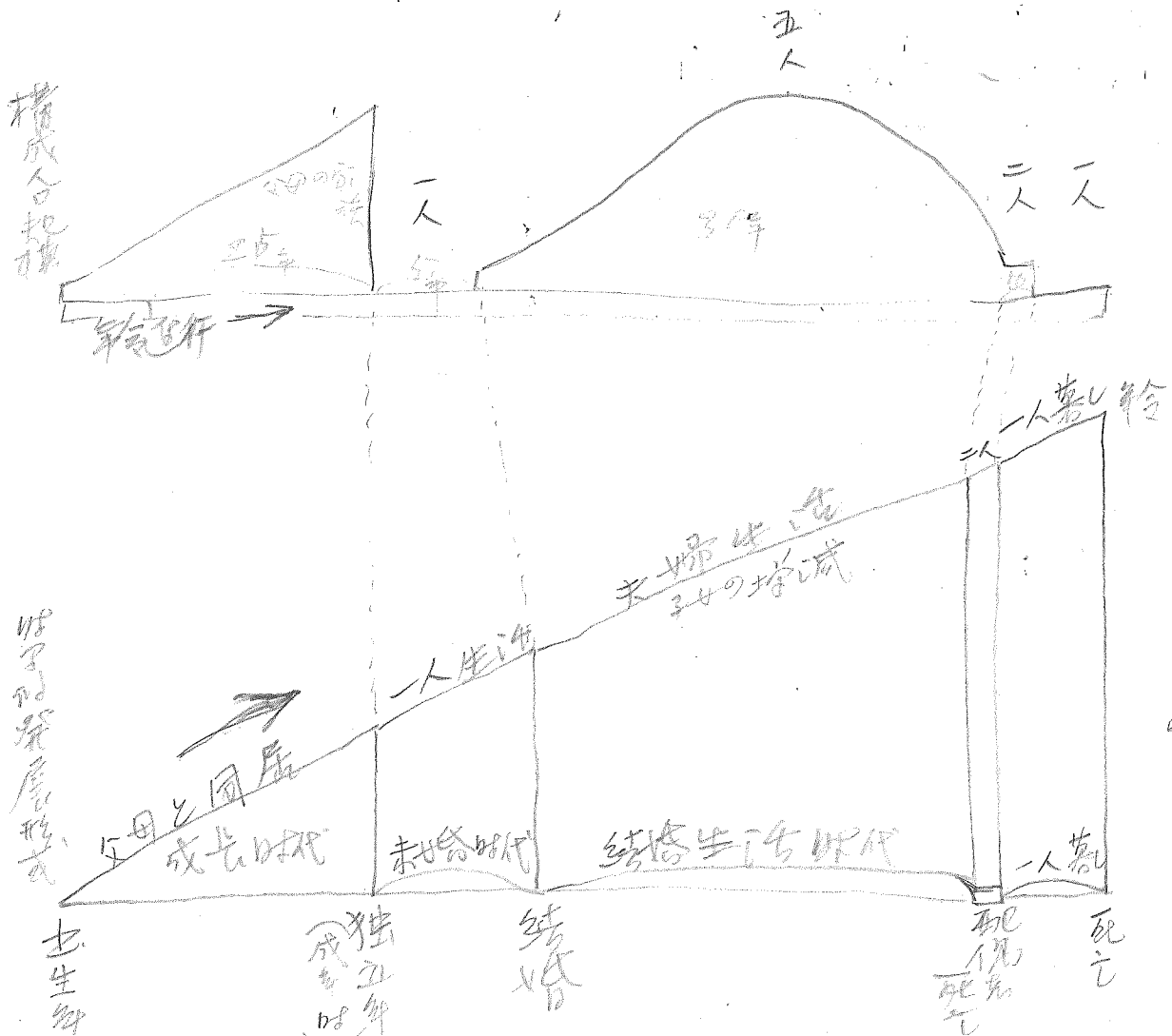
階級、社会連帯、その問題

口民族などにおける各種模様の
配列と大抵の立地関係を以て
地図の上にそれらの活動を
表現する必要がある。

これといふ階級や社会連帯や
行動基準の整理をどうして
表現する必要があるか。第一これ

そのものは口民族の構造に關係
あるものはあるが、それならこれ等の
のは何の民族の
ものか。

4



平均人の一代の生活型

哲学・社会学の内容として下の示機は完
全に把握し十分なものであらうか
味をゆきとする。娯楽は如何
かに社会文化は如何のレベルの
文化形態が単純なものであるかに
なる現象は特徴づけられべきであ
る。形態を人法の上に構成する。
のさであるが、生業法より同居
を言ふべきものである。

口民文化における文化を理論
の取扱い

文化の文化を理論の内容をなす
文化、道徳、法、経済、言語、芸術
の諸現象は口民文化の範囲にある
どんな形で取扱はれるべきであ
るかを問ふべきである。

各文化にその口民文化における
構造と機能を明かにする
が必要である。口民文化における
第一口民文化に於ける道徳以下
同様である。

文化の諸現象の自給自足性の認識が必要。

(9)(4)(5)(1)(8)(7)
(6)(2)

第
五
の

一三法

本基

1 經法
 2 保字
 3 交互
 4 通元
 5 敗壞
 6 廿七
 7 宗教
 8 教育
 9 娛樂
 10 法
 11 宗教
 12 道德
 13 藝術
 14 休息
 15 飲食
 16 睡眠
 17 疾病
 18 死亡
 19 宗教
 20 道德
 21 藝術
 22 休息
 23 飲食
 24 睡眠
 25 疾病
 26 死亡
 27 宗教
 28 道德
 29 藝術
 30 休息
 31 飲食
 32 睡眠
 33 疾病
 34 死亡
 35 宗教
 36 道德
 37 藝術
 38 休息
 39 飲食
 40 睡眠
 41 疾病
 42 死亡
 43 宗教
 44 道德
 45 藝術
 46 休息
 47 飲食
 48 睡眠
 49 疾病
 50 死亡
 51 宗教
 52 道德
 53 藝術
 54 休息
 55 飲食
 56 睡眠
 57 疾病
 58 死亡
 59 宗教
 60 道德
 61 藝術
 62 休息
 63 飲食
 64 睡眠
 65 疾病
 66 死亡
 67 宗教
 68 道德
 69 藝術
 70 休息
 71 飲食
 72 睡眠
 73 疾病
 74 死亡
 75 宗教
 76 道德
 77 藝術
 78 休息
 79 飲食
 80 睡眠
 81 疾病
 82 死亡
 83 宗教
 84 道德
 85 藝術
 86 休息
 87 飲食
 88 睡眠
 89 疾病
 90 死亡
 91 宗教
 92 道德
 93 藝術
 94 休息
 95 飲食
 96 睡眠
 97 疾病
 98 死亡
 99 宗教
 100 道德
 101 藝術
 102 休息
 103 飲食
 104 睡眠
 105 疾病
 106 死亡
 107 宗教
 108 道德
 109 藝術
 110 休息
 111 飲食
 112 睡眠
 113 疾病
 114 死亡
 115 宗教
 116 道德
 117 藝術
 118 休息
 119 飲食
 120 睡眠
 121 疾病
 122 死亡
 123 宗教
 124 道德
 125 藝術
 126 休息
 127 飲食
 128 睡眠
 129 疾病
 130 死亡
 131 宗教
 132 道德
 133 藝術
 134 休息
 135 飲食
 136 睡眠
 137 疾病
 138 死亡
 139 宗教
 140 道德
 141 藝術
 142 休息
 143 飲食
 144 睡眠
 145 疾病
 146 死亡
 147 宗教
 148 道德
 149 藝術
 150 休息
 151 飲食
 152 睡眠
 153 疾病
 154 死亡
 155 宗教
 156 道德
 157 藝術
 158 休息
 159 飲食
 160 睡眠
 161 疾病
 162 死亡
 163 宗教
 164 道德
 165 藝術
 166 休息
 167 飲食
 168 睡眠
 169 疾病
 170 死亡
 171 宗教
 172 道德
 173 藝術
 174 休息
 175 飲食
 176 睡眠
 177 疾病
 178 死亡
 179 宗教
 180 道德
 181 藝術
 182 休息
 183 飲食
 184 睡眠
 185 疾病
 186 死亡
 187 宗教
 188 道德
 189 藝術
 190 休息
 191 飲食
 192 睡眠
 193 疾病
 194 死亡
 195 宗教
 196 道德
 197 藝術
 198 休息
 199 飲食
 200 睡眠
 201 疾病
 202 死亡
 203 宗教
 204 道德
 205 藝術
 206 休息
 207 飲食
 208 睡眠
 209 疾病
 210 死亡
 211 宗教
 212 道德
 213 藝術
 214 休息
 215 飲食
 216 睡眠
 217 疾病
 218 死亡
 219 宗教
 220 道德
 221 藝術
 222 休息
 223 飲食
 224 睡眠
 225 疾病
 226 死亡
 227 宗教
 228 道德
 229 藝術
 230 休息
 231 飲食
 232 睡眠
 233 疾病
 234 死亡
 235 宗教
 236 道德
 237 藝術
 238 休息
 239 飲食
 240 睡眠
 241 疾病
 242 死亡
 243 宗教
 244 道德
 245 藝術
 246 休息
 247 飲食
 248 睡眠
 249 疾病
 250 死亡
 251 宗教
 252 道德
 253 藝術
 254 休息
 255 飲食
 256 睡眠
 257 疾病
 258 死亡
 259 宗教
 260 道德
 261 藝術
 262 休息
 263 飲食
 264 睡眠
 265 疾病
 266 死亡
 267 宗教
 268 道德
 269 藝術
 270 休息
 271 飲食
 272 睡眠
 273 疾病
 274 死亡
 275 宗教
 276 道德
 277 藝術
 278 休息
 279 飲食
 280 睡眠
 281 疾病
 282 死亡
 283 宗教
 284 道德
 285 藝術
 286 休息
 287 飲食
 288 睡眠
 289 疾病
 290 死亡
 291 宗教
 292 道德
 293 藝術
 294 休息
 295 飲食
 296 睡眠
 297 疾病
 298 死亡
 299 宗教
 300 道德
 301 藝術
 302 休息
 303 飲食
 304 睡眠
 305 疾病
 306 死亡
 307 宗教
 308 道德
 309 藝術
 310 休息
 311 飲食
 312 睡眠
 313 疾病
 314 死亡
 315 宗教
 316 道德
 317 藝術
 318 休息
 319 飲食
 320 睡眠
 321 疾病
 322 死亡
 323 宗教
 324 道德
 325 藝術
 326 休息
 327 飲食
 328 睡眠
 329 疾病
 330 死亡
 331 宗教
 332 道德
 333 藝術
 334 休息
 335 飲食
 336 睡眠
 337 疾病
 338 死亡
 339 宗教
 340 道德
 341 藝術
 342 休息
 343 飲食
 344 睡眠
 345 疾病
 346 死亡
 347 宗教
 348 道德
 349 藝術
 350 休息
 351 飲食
 352 睡眠
 353 疾病
 354 死亡
 355 宗教
 356 道德
 357 藝術
 358 休息
 359 飲食
 360 睡眠
 361 疾病
 362 死亡
 363 宗教
 364 道德
 365 藝術
 366 休息
 367 飲食
 368 睡眠
 369 疾病
 370 死亡
 371 宗教
 372 道德
 373 藝術
 374 休息
 375 飲食
 376 睡眠
 377 疾病
 378 死亡
 379 宗教
 380 道德
 381 藝術
 382 休息
 383 飲食
 384 睡眠
 385 疾病
 386 死亡
 387 宗教
 388 道德
 389 藝術
 390 休息
 391 飲食
 392 睡眠
 393 疾病
 394 死亡
 395 宗教
 396 道德
 397 藝術
 398 休息
 399 飲食
 400 睡眠
 401 疾病
 402 死亡
 403 宗教
 404 道德
 405 藝術
 406 休息
 407 飲食
 408 睡眠
 409 疾病
 410 死亡
 411 宗教
 412 道德
 413 藝術
 414 休息
 415 飲食
 416 睡眠
 417 疾病
 418 死亡
 419 宗教
 420

6 5
労働者
1
1
2

力の
ある
所に

その給源が口外にある場合の口外給源の
の不徹底と混乱の甚くする実を示す可きこと

機織の一種である
 塩のせめ、砂糖、調味料

テリトリーの同じ

生活生態より社会が学ばない
は共生の原理より社会よりテリトリ

の南東原理である。

独占野鳥の

テリトリの原理は社会生活にも認
められるものか甚だ多く有している。

テリトリの原理は枯葉にも都市
にも口尻にも認められる場合が

多くある。

外員構成

町長

家族主任

村井浩主任

都部主任

口民社会主任

社会主任

主任

主任

社会科学研究所設立費

一、研究可建設費 五〇〇,〇〇〇

一、人件費十人分年 二五〇,〇〇〇

一、備品費 一〇〇,〇〇〇

一、維持費年 五〇〇,〇〇〇

一、購置圖書贈与等 一〇〇,〇〇〇

一、次年分事務費 五〇〇,〇〇〇

港区高輪北町八

電話 四四・八二九一・三

アシア財団

シムステス

植田誠氏

社会科学研究所

の
た
た
か

43

法 2
者

三、

4
15
2
3

5- 瓶

6
11
2

1
 2
 3
 4
 5
 6
 7
 8
 9
 10
 11
 12
 13
 14
 15
 16
 17
 18
 19
 20
 21
 22
 23
 24
 25
 26
 27
 28
 29
 30
 31
 32
 33
 34
 35
 36
 37
 38
 39
 40
 41
 42
 43
 44
 45
 46
 47
 48
 49
 50
 51
 52
 53
 54
 55
 56
 57
 58
 59
 60
 61
 62
 63
 64
 65
 66
 67
 68
 69
 70
 71
 72
 73
 74
 75
 76
 77
 78
 79
 80
 81
 82
 83
 84
 85
 86
 87
 88
 89
 90
 91
 92
 93
 94
 95
 96
 97
 98
 99
 100

7
7

12

五

8
13
+

11
強い意志の持ち主。人同様の体認。人生の終末のよいこと。

貞操新論

麦畑で今更き来たものだ。

ヒバリが鳴きながら舞い上ると附近

の畝から別のヒバリが舞い上ってあのヒ

バリに群れを成し、空中を舞い上ってあのヒ

バリに群れを成し、空中を舞い上ってあのヒ

バリに群れを成し、空中を舞い上ってあのヒ

バリに群れを成し、空中を舞い上ってあのヒ

バリに群れを成し、空中を舞い上ってあのヒ

バリに群れを成し、空中を舞い上ってあのヒ

バリに群れを成し、空中を舞い上ってあのヒ

バリに群れを成し、空中を舞い上ってあのヒ

バリに群れを成し、空中を舞い上ってあのヒ

バリに群れを成し、空中を舞い上ってあのヒ

に一結、使んでい、大越のヒバリで、その
負けて、魔物の振に出かけよのに
あかしの妻のヒバリが共に飛んで
たのなり、いかんも、大越の妻のヒバリ
の振に思はれよ。おー、若い形、あ
ヒバリが、我、お、や、ふ、お、い、さ、さ、か、つ
た、お、こ、い、あ、か、う、そ、お、ヒバリが、若
い、お、の、ヒバリ、も、若、い、お、い、た、の、で、あ
つ、た、ら、お、は、お、い、で、あ、よ。もし、お、う、な、ら、
あ、か、ら、の、お、の、ヒバリ、は、^{戦いに勝つ}、^死、^字
し、得、た、か、あ、お、は、お、い、た、の、で、あ、よ。
と、い、南、勝、た、お、が、止、す、い、お、い、た、お、

か出て行った事はたしかであらう。又出
ていったオの枕に雌のヒバリがフゐた
事しかたであらう。出ていったのか
ここにみかき居るオのヒバリであらうか
圖として来たヒバリであるか、それ
が同じである。何れにしても出て行
った雌に雌がついて行った事はおた
しかで、^{あつた}出ていったのが今までの夫であ
たが、野夫をまかせた夫より強い相
であつたのか、^{それ}知れよ。ヒバリの雌は
貞節な鳥であるが、淫婦であ
るか、卵が決定するやそれによつて人の妻の
それ。

或いは 本能的

ト是即ちも先天的のものか 全くは天
人の為の 制的のものかの別も明らかとなる。
人の妻の貞節がもしかしたら、或い
は幾分かでも先天的本能的のものか
しれぬと考えて見よ。 （参考になる）
てある。

四月五日

日長社合に於ける協力の手帳
管理、代金、借、与世、
準備、各種、契、約、
支、視、服、候、教、育、指、導、被、導、

テルケム
 の社会学の概要
 4. 6. a 3 2 1
 芸術経済道常
 術語市徳教
 規交生規規規
 範済常範範範
 文化文化文化文化文化

18

社会の形成は四種の枠組の
 何れか九種の組合のどれ
 かであるといわれる。
 四種の枠組とは
 1. 家族
 2. 村落
 3. 都市
 4. 民族国家
 の四種であり九種の
 組合とは
 1. 家族
 2. 家族と村落
 3. 家族と都市
 4. 家族と民族国家
 5. 家族と村落と都市
 6. 家族と村落と民族国家
 7. 家族と都市と民族国家
 8. 家族と村落と都市と民族国家
 9. 家族と村落と都市と民族国家と経済道徳

19

987

娛樂家

1 宗那
2 道德
4 藝術
佛者、臣

一般に、
経済的
哲学者
の多く
は、
経済学
の基礎

然し
○民衆の
広場
にあ
るに
は

泉
山
石
下
果
原
和
心
は
村
落

か
都
市
に
お
け
る
外
に
家
に
外
へ

いす
○
枯葉
乃い
柳市
女は
京水

7
この反響の
廣場は考
えられ

かゝる
あ
口
改
能
自
作
の
張
入

東洋の古書

かゝる。口取の制は強固

21
ではあるが、人は常に村松か都府
に居住せしむるに依つて長官に
に所属する。人が直接に民
衆の成員と考へられぬのは
法律の上で国家の統治と関連し
て考へられぬのである。然りしと
の場合、法律は法の国家の民衆
にのみ適用され借入してゐる。
けれども村松も都府にもど
うかある。法律上の国家が国家の
法律に依つてのみ適用される。
村松か都府の法律上の司法制

事によつてとかの川のほとりへ描えら
れたらう、とかの村落か都の町か
家以外に家並のその整く家が
あゝか。

村並の生活が都並の生活かでない
口家並の口家の生活でない
答はなつ、あれはそれは異なる法
文上の學問にすぎない、村並も都
市にも其の生活はあり得る。
實際的能くあるは凡そ此なり、
は口家の生活下にも、村並か都
市の住民のその記するものと
数字の可きである、所謂基

礎理論はかくの如き記号で表れるお
ける理論以外には有りたくない。
強いて云へば林蔭の都市にも共通
な記号理論以外には基礎理論
と云ふ可きものは無い。基礎理
論は林蔭でも都市でも認められ
た。理論としてこればかりでなく、林蔭
記号など又は都市記号などの認め
た記号基礎理論だともいふ事は
ある。

余の社会構想

余は之で述べざる社会関係の
却を模索せざるを何より
社会の発展の力と過剰といふ。
その社会関係は繁栄する地域
上に専横して居たが、
これを追及して見た

都市とは社会関係は地域の上
に在り、
社会関係の発展するものなく、
社会関係の発展の力と過剰といふ。
都市とは社会関係は地域の上
に在り、
社会関係の発展するものなく、
社会関係の発展の力と過剰といふ。

由宗族の外、地方で地域の上は
都市では戦の上は香積といふ。
故に私は中野村では宗族と地域
関係（自然村）が主要な構造を
をわし都市では世帯と職場
が主要な生活の主要な構造を
してゐることも出した。

私が希望したのは、この関係の一部を
現成の内におさめようであつた。
それを何れか主としてやめさせよう
か、より自然な平利に一切の関係を
を整理して見ようか、此等の所
研究の土環上には必要と思つたが

うであ。主観の研究はその緒に
ついた時の意見を述べた。然し、
主観を認めれば、それは、
検討し、検討し、検討し、
であらう。

私の主観は、認識の基盤に
おいて、主観的である。主観
の主観的なものは、主観
とは、主観的なものである。
的立場から、主観的なものである。

同族図による村の形成は不可能論
同族組織が村の形成の中心である
との考へ方は誤っている。

今日のところの村にも然り同族
團中の村にも私が述べた村
の構造は見られる。同族團中
の村が即ち東北型中に私が
西南型東村と異つた村の
構成原理を述べている東北
型と西南型とに分ける事も
ある。けれども西南型にも
東北型にも村の構造といふ
は私の所と自然村の所とはない。

東北には古い同族関係がすくなく
残っているが、それである。村落
を構成しているものは金に共
通である。だからそれか村落
構成の原動力であつて、東北には
血縁関係の残存が見られる
と云ふのである。村落構成
としては今日の村一つ自然村
の習性によつて出来てゐる。
同族組織が村落構造の原
動力となつてゐるやうであらう
おかしな事である。

今日の東北の平凡な

私は豊井村に於ける此の岡地の
一帯のものを研究に入れてその
地形的岡地を明かにするよう
にしよう。自然村の発展を著し
た。その二は一帯の地を研究が
検討されるよりもよく示す
さうな。その中で岡地を
の辺縁の岡地も一帯を考慮
される。いふのである。その上にさう
から永た自然村の發展である。
東北型と西南型と別々の村落
構成の分布がある。その別は

重要であるけれども村落構成の至
現は兩處に共通で、只東北型に
同族同仕が強く現れていると云ふ
のである。共通の型は自
然村の形態であつて、同族姓の
習習がそれに対応する形態の如く
考へるのはとんでもないであらう
日本村落は皆十族の集團の重複
の上になつて、五族の混合地は形成
し方の一つの上に自然村を形成し
ていふと云ふのは南西の例中から
東北の例から共通になつてゐる。

の思積理隊、集團の十條の精
成、中々思積理隊にあり。此等
意識、物事作用の圈の存在、
が有る。の相互のあり。
これ等の形式は東北の同族の村に
北極して、いふ筈である。極してい
は、こゝ村になつて、いふのである。存
しう、存けられ、五れは形ではなく
要なり。同族團の中心である。

東北の同族の村も自然村の形式を
とらえ、乃至は極めて村になつたの下、
それとていふにはまた同族同姓の
ものである。日本中の村は皆自然村
の形式をとりなすといふが、東北には
同族同姓が強く残つてゐる村が多い
丈である。同族同姓の村も自然村の村
と見做すに異なつてゐるばかり、日本の
村は皆自然村の構造をとらえた時に
村となり、村となつても同族の増件が

32

のこりてゐるものゝうちから
とるゝ大である。

日本の都市とアメリカの都市

日本の都市は既知人々の協同的な
中に於いて、我々が加はって行くに
よつて出来たものである。村落の
秩序は大抵に保持され、少くも成
長して行く過程の中、都市は成
立して来たもの、部分的にテリトリー
の原則が乱され、寸なく成長して来
たものである。

然るにアメリカの都市は各地より集
めて来た未知の民衆の自由人が合
的に形成した原初的なものの中、少
くも民衆的自由人が加はるる

成吉思汗の事
よき事を
群衆の心で
おぼしめす
事である。最初

口宗又は統治文化の基

口宗や統治組織は言語が他人
に先だつて有しては後に他人に先だつ
て有してゐる。凡そある文化がある
であるとも云ふ。言語はそれがある
文化より一度も中絶する事なく存
続して来る。蓋し口宗は口宗として
他の文化も中絶する時期があるとい
は思ふ。文化は文化として存続する
口宗に中絶がなかつたのは直接には
テリトリーの事柄に懸るものか
それか。又あるか。

口宗の存在は文化の基

指に有しての統治形式や方法をとい
な風に継承する。もしもか過ぎた
ければ、江戸幕府の統治構造
が、知即ち江戸幕府の官儀
文化は明治政府の官儀文化と
んが風に傳へられ、いかたしかめ
なけりやうぬ。明治政府の役人
と江戸幕府の役人との区別は、す
る引きつゝ、かゝんな形で行はれた。
直轄の各藩との藩政は、そのまゝの
形で明治政府の地方の地方行政
として継承され、行政の體を變へ

行つてゐる。

同様に統治をうけおつてゐる地方自治人等
から見て新政府と旧政府の交代は統
治の内容にどんなな変化をもよほしたか
狼から虎に代つても兎にせうは
少しも異なつてゐると思はれたか、こゝに
あるのがある、空であらう。

職掌と住所の交代の自由は、大抵
今の日本には空半形であつた。新政府
は北海道の準備と開拓のために北海道の移
住する者をもて、強制してゐる。移住せしめ
たのであつたが、さうなつて職掌と住所の

自由の善政の形でそれを達成した。これは
新政府の大きな軍をためてある。

徴兵制の實現は先進国の制法の輸入
であるといわれるが、廢止舊藩の旧武人
文化の統制力があったらこそ無事
に移植される得るとされる。

土地制度の改革も大事業である。
この改革と昔ハ口民の同の力の新
秩序の持出が定ぬらぬ。

藩政改革の制法は旧藩制の行政慣
習の内からなく金く新しく先進のより
輪いしとあつた。